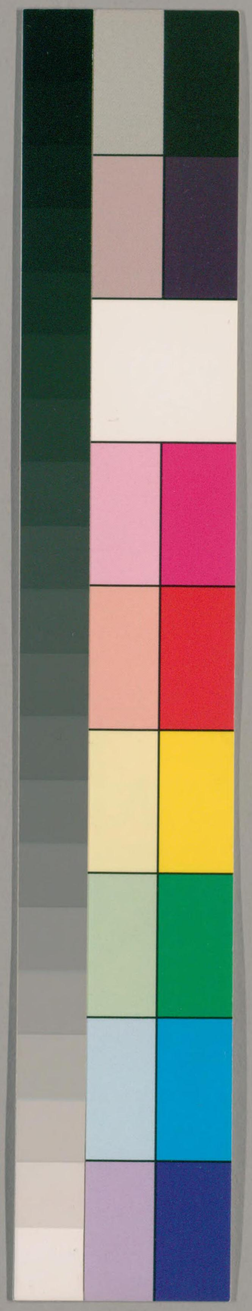
# 千蟲譜

四

特7
160



国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160

ガラス使用

帝国図書館蔵書
特7-160
伊藤大八郎記

栗本丹洲翁

# 千虫譜

四

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

伊藤篤太郎記

帝国図書館蔵書

蚊異品

三月自ニ毛アリ金色ニ光ル銀ノ如ク白ク光モアリ発ニハヤシ嘴長ク蚊ノ如シ牛馬ニ付テ血ヲ吸フ又人モ咬ツ

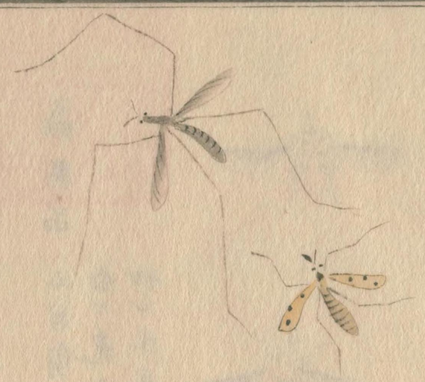
蠛蠓一種

六月下旬ニトル四足長ク水黽ノ如ク毛アリ髭モ前足ト共ニ折テタヽムモノナリ夜分提燈ノ光ヲ慕ッテ来ル蚊ノ如ク又クモニモ似タリ桑螟蛸清明ノ候百蛸蠓子出ル状ハ此物ニヨク似タリ

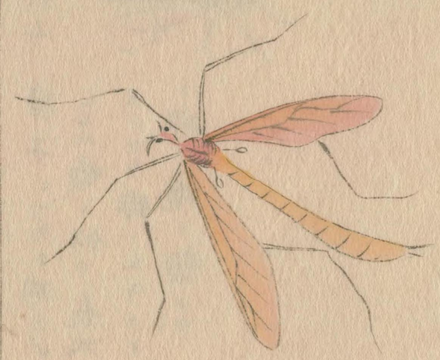
蟲異品

蟑子バチ　蟑子ニツキテ羽ヲナラスビリ〳〵ト云羽ヲ去リテシレバ蟻ニ似テ長大ナリ人ヲ螫ス無能ナルモノナリ腰ニスキトヲル汚アリ蜂トハ名ケレドモ蜂ニ非ス蝿ノ類ナリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160　ガラス使用



蚊一種
四脚者人ヲ
吃ハズ



蚊一種 最大者水辺泥土中ニ生ズル
長キ蛆ノ化スル処ヨリ熊蚊ト云前ニテ蚊ノ伯母ト云ルヨシ大和本艸ニ
云ヘリ江戸ニテ蚋トンボウトニ人ヲ吃ハズ

蚊一種
嘴辺有眉如花九十月蛛割不死
別種之者又有青白色者倶不
害于人

偶閑金川鎖記
云金川無蚊蚋
間有一二飛声甚
然大如蜻蜓不
蟄人乃知金文靖北征録中
紀元故都夏有蚊如蜻蜓信
然嘗撲獲一牧勃文長脚頭有黒翎如
箭羽戯賦諸書稱中以為他日佐笑

一種蚊ノ巨大ナル者人ヲ螫スコトナシ俗名蚊ノコバ又カトン
ボウ両翼ノ下皷槌ノ如キモノアリ已ヲ前ニ去レハ飛フトリ雖シ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

蚊、伯母

遠望雲煙ノ如ク其飛ブ
高キコト八九尺風ニ吹落サレテ
地ニ下リ即翼ヲ脱ノ地上ヲ行キ
遂ニ赤蟻ニ食ヒ盡サレ蛛網ニ罹リ
終ヲ全クセズ蘭山云此モノ大ナルハ長サ四五
分ナルモノアリト云ホタ如此大ナルモノ見ズ

白蟻 ハアリ
尾況ニテハ子アリ我中河内伊勢
ニテハリトモ羽ノ生セザル子筑前
ニテハトウトヲシトモ春月
狀晴ノ日ニ羽化メ出ヅルノ
ヲ是多シ

蚊一種脚長ク高ク蚋ヨリ其毒甚シク蚊
ヨリ出ル脚黒ク斑ナシ

蚊子 ヲニカ

一種赤キ羽褐色、紋アリ
四月頃蚊ノ出ル初ニ出ル

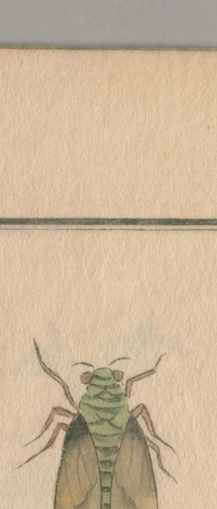
六月十日取ル所ノ赤蚊トンボ
ノ類ナリ羽黒クスク指ハサベニ
イロノ光アリアシノサキカバイロ
青キニ近シイロノ光リアリテツヤ
ヨシ頭黒トビイロ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

蜱母　和名松蝉
三月十九日

蝉花　セミタケ

寒蝉　ツクツクボウシ



寒蜱

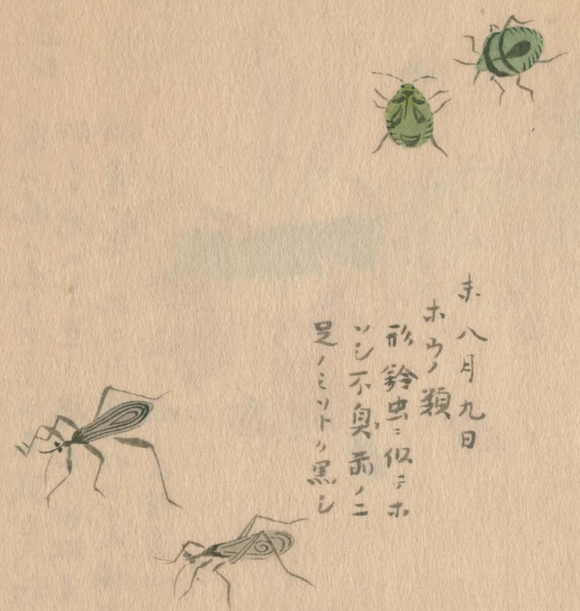
アハムシ　夜ハ尾ニ光リアリト云未詳ナリ初生ハ黒色中頃尾赤ク青小豆ノ色ニ似タリ老スルニ至テ褐色ニ白斑アリ沼ノ内ヨリハイ出テ葉ニ取付テ背割テ羽飛ノ虫ニ化ス小蝉ニ似タリ人捕ントスレバ子ヲ飛出ル五六尺ノ内ニ遁キ又夜ハ鳴ト云蚤ヨリ小ノモノ人身ニ附ヘカタシ是ヲサゴロモゼミトモイヘリ

蝉　音淫　衣白虫　千金方　書魚　訓蒙字彙
蜩　正字通
蜩　同上俗字
シミ
ハクムシ

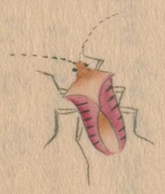
書筵ニ生ジ害ヲナス形魚ノ如シ故ニ蜩字ヲモ用ユ白魚衣魚ノ名アリ下野方言シロカラムシ

一種陰湿ノ処或ハ壁間ニ住ミ光リナキモノ薩ニヒラセムシ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用



ホウ二種
手ニ觸レハ則
有青氣

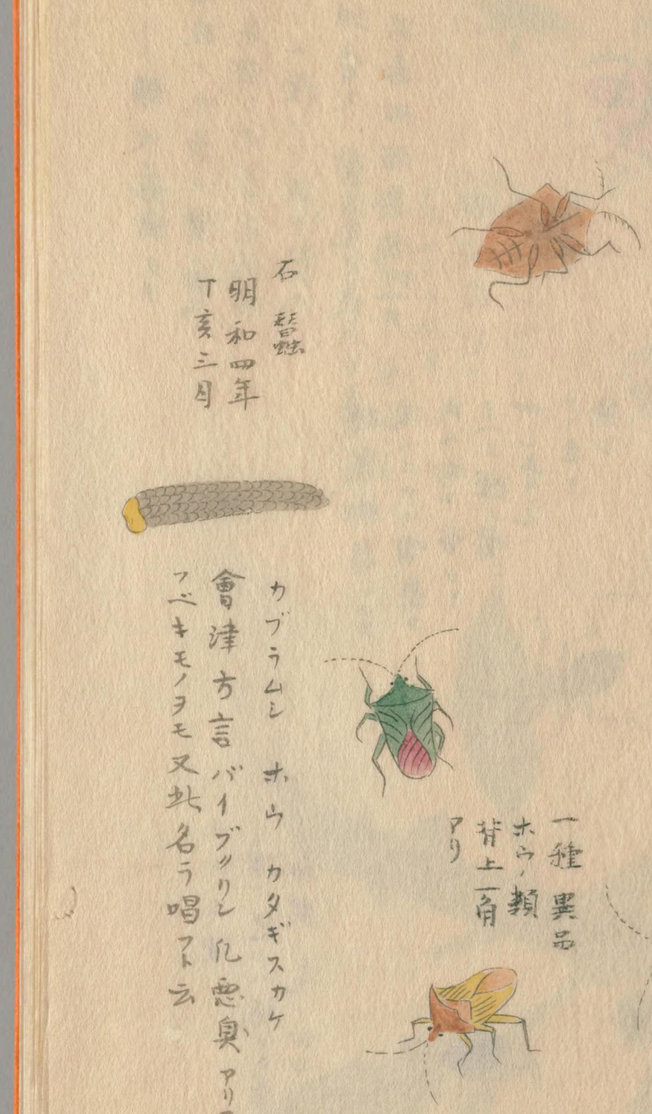


椿象臭 椿上ニ住ス其虫ニ微シク觸シ、
青氣アリ久シクテ去ラズ草果新ニ
到ル臭気ニ似テコレヨリモ酷烈ナリ
草果集解ニ其気如斑蝥トイヘル
モノ指テ云ヘルベシ

帝京景物略云有実蠹
印象臭而臭也大如米櫻
曰椿象生臭椿上臭不可
觸者是其類甚多如図

八月九日

ホウノ類
形鈴虫ニ似テホ
ンシ不臭而ニ
足ノミソトノ黒シ



ホウ ホウツキニ付ノ因テ
酸醤ヲホウツキトモ云ト
大和本草ニ云リ筑紫
ノ方言ナリ京都ニテハハン
ニンカウムシ
ナトニ云ツモノアリ

松藻虫 形ハ谷ニホンボラ秋日セセコギ
汚流水ニヲリ卵ヲ流ニ逆ヒ
游行ス水涸ル時ハ羽飛ンテ他ニ
松藻ノ中ニ生ス行潦水ニ
モタヽヒトシクヒロク有リ

一種異品
ホウノ類
背上一角
アリ







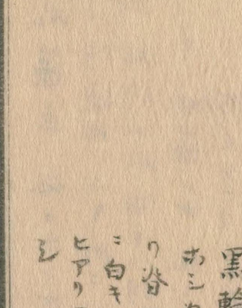
右螬蠐
明和四年
丁亥三月

カブラムシ ホウ カタギスカケ
會津方言バイブクリシ仇悪臭アリ忌嫌
ベキモノヨモ又此名ヲ唱フト云

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

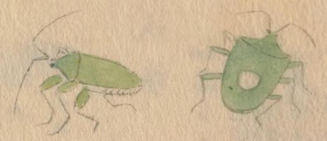
ホウノ類大毒虫ナリ
毒在ノ木葉ヲ食フ虫ニ
惣身堅ノ甲アリ赤色毋
色ノ二種アリ黒キ処ハ尺
ノ紺青又ハ紫ニ光リ美
也其毒班猫ヨリ峻烈ナ
リ

椿象脚高シ口
後ヘヒサル嘴長ク
内ヘ折テ脊ヨリ
三ツス蝉ノ嘴ノ
如シ青気
アリ至テ
臭シ



下野方言平賀虫
黒輪ノアテ外内白ノ中ク
ロニハリ黒ノ茶ニテクヾドル
黒輪ノ内白ノウヲ
カシクタクミニユツアア
リ脊筋トヲリ名
ニ白キスシ入ツ玉
ヒアリアレヒケ黒
シ

ホウニ種
倶ニ怒レハ極テ青気
草黒ノ気ノ如シ



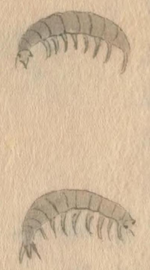
ホウ
俗ニ云ハンニウ
綱則草黒ノ
気ヲナス蚊日
黄蘗ヨリ落ルモノナリ
訳夫ノ肩衣ヲ着セル形
ニ似タリ

ウミガサ
ウツギ或ハウド等ノ
嫩枝ニツク白キ繋ヲ
吐テタタノ葉ヲツヅセ
ノ如シ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

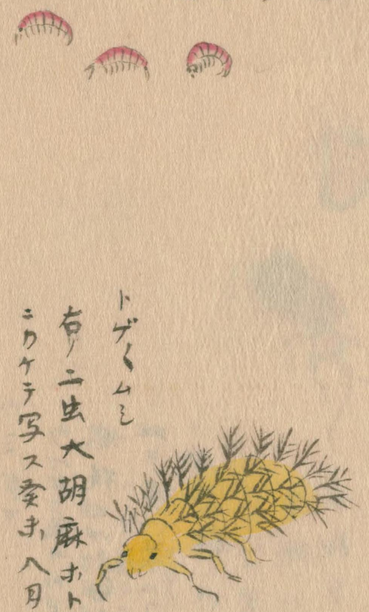
水蚤

和名トヒムシ蚤ノ如ク跳ル下湿ノ地ニ生ス夜光リアリ螢火ノ如シ又水中ニモ生ス擲蝦ニ交生ス又鹹水ニモ生ス海苔ニノル大小色アイハ遠ニ形状ハ一様ナリ



トゲ〳〵ムシ

右ノ二虫大胡麻ホトアリ虫メカ子ニクケテ写ス委ハ八月十二日



ゴミカワギ

身ニ流アリ長キ細毛ヒシトアリテ細キケリヲ身ニ被テ虫ノ形モミノスホトナリ

タイコ虫

全身薄斑而如木葉然モ堅硬テ

エビムシ

鹹水池塘中ニ産ス全身浅茶褐色ニシテ背透徹ス尾ハエビノ如クニメセラ重ナル形ホソナルモノハ色黒シ此モノ三月上旬鰌残魚内ニ交リテアリ紙業ナドニ付小虫ニシテ生活スルモノ甕缸内ニ水ヲ盛テ其中ニ入レハ走ルテハヤシロレカラノ如ニメ大ナルモノナルベシ

蝦蠏虫ノ脊破レテ蜻蛉出シハ其殻如此

水蠆脱殻

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160　ガラス使用

孫太郎虫乾枯者
奥云支田那越河村
流水中ニテ得ル処ノモノ
春月アリ小児ニ灸食
ハヒノ痘ヲ治ス水中大
石下ニ居処
石垂ル一名
石下新婦ト
云フ

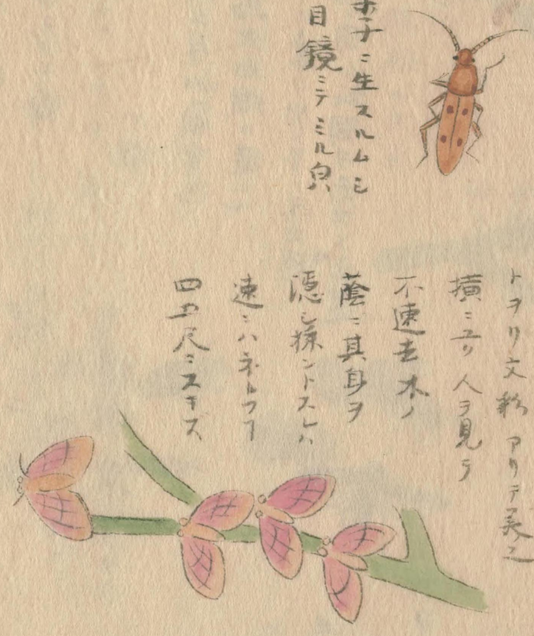
夏子 大坂ニテヒルメシモクト云江戸
ニテカワバト云甲上白子ラ夏ア
図ノ如シ

下野方言 オロシウリト云五月頃
甲上ニ白キ子ヲ生ス形ヲコシ
木ノ如シ故ニ此名アリ

小黒虫 甲アリ
長キ糸キヒゲアリ
脚ヲタヽミテ無ク如シ
辰ノ六月念七
土用ノ入ノ日写ス

大サ此キアリ

菓子ニ生スルムシ
虫目鏡ニテミル処



臭椿ニツク 五六尺ヲ
飛ブ羽コロニ蟬ノ如リスキ
トヲリ文彩アリテ美シ
摘ニテ人ヲ見ラ
不速去木ノ
蔭ニ其身ヲ
隠蔽ントスレハ
速ニハネトラテ
四五尺ニスキス

同二
一種形大ナリ
ウドノ蝨ニツク
三五列ヲナス人ヲ
見レハ葉ノ陰ニ
ククルモノナリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160　ガラス使用

ヲセゼ 五六月 サツキ ノ木ノ
嫩芽ニ着ヲヨブエノ類
也捕ント欲スレハヲヨトブ
ヲミル
文政丙戌三月和蘭官医
西儒尓篤出白蠟ヲ造ル
虫ヲ画ケル書ヲ出シ予ニ示ス所
此物ニ同シ此国ヲテストヲ云是
同形ナリ

同上
栗徳ナ麻ノ茎
時ハ尾上白毛脱落ス

ヨコブエ 二種
夜ハ水光ヲ慕フテ
提燈ニ着ルモノナリ

ヨコブエ
常ニ羽ヲ
合ン枝ニ
トマル物
驚ケバ飛ブ

守瓜ノ一種

桐ノ木ニ孔ヲ生ス
黒甲堅シ

壁ミノムシ
蜚蠊ニメ
面頭門ヲ
ゆるざ

一種
長キモノアリ
一種共ニ面頭ニ口ヲ開キ
アトサキ一虫ノ頭ヲ出ス

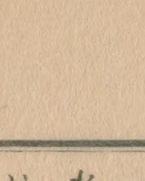
五加虫至テ臭シ好ニ
アユムモノナリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

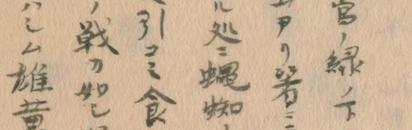
砂蚤子　ウシノミ　アトヒサリ
ウスノミ　子ムリノミ
コボク　マニツコ江戸
子ムリノミ　サウトノ
タウヘムシ　ドロ

堂官ノ緑ノ下陰地土ノサラ〳〵スル処ニ出ル処アリ其中土中ニ
此虫アリ著ミテホリヒレハ出ル土ヲカブリ三分下ニスムモノナリ
出ル処ニ蝿蜘ノ類出土中ヨリハ子出ラロ、ハサミニテ挟ミ立
出ヘ引ヨミ食フ者ニ外ニ筍ヲトリテ出ル処ヘ亡ハ戦フヤウニ
牛ノ戦カ如シ好テアト〳〵ヒサル又跳テ仰ミルヲアリ小児等ビ
戦ハシム雄黄ト等分ニシ丸ニ用ヲ狆ノ虫ヲ殺シテ妙ナリ也ト

云赤蜥白灰使君子内ヲ
加ヘテ更ニ妙ナリ



一種黒色
紺色ニ光ル
モノ







守瓜　ウリクヒムシ
ウリバイ
胡瓜或ハキウリノ葉ニ付テ
喰フ人ヲ見レハ速ニ飛フ

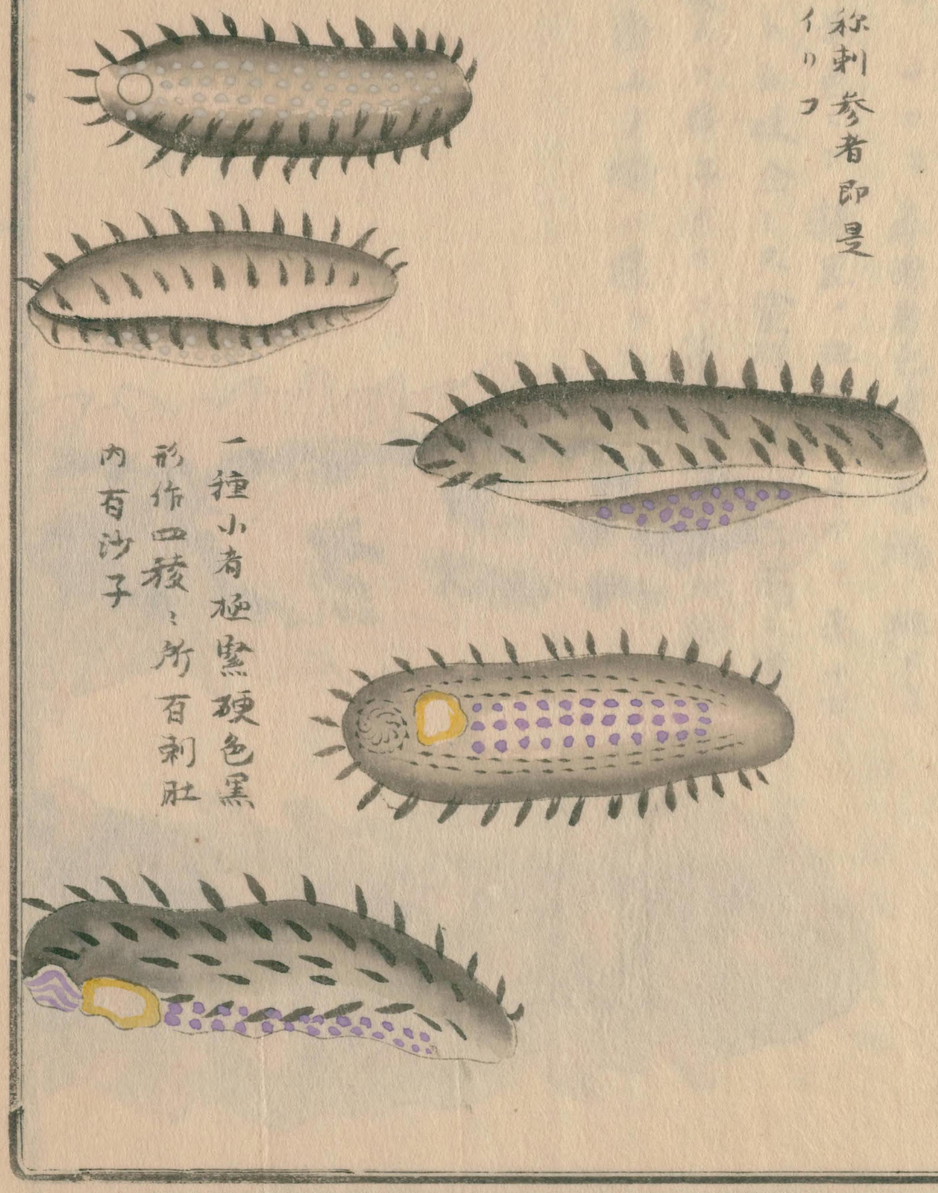
海鼠　和訓奈未　古本草綱目不載之馮時可雨航雅録ニ載ル処ノ沙噀ナリ一名
沙蒜其書云沙噀塊然一物如牛馬腸臓頭長五六寸無目無口無骨但能蠕動触之縮
小如拇案徐復攏腫土人以沙盆撩去其涎腥雑五味煮之脆美為上味云寧波
府志亦載之五雑俎一名海男子薬性纂要之海蛆温州府志之塗筍也又按格致
鏡原引蟑史云泥一名沙噀其書云泥無骨也在水則活失水則酔如泥然諸
物異名疏ニモ北ノ方ノ人非蒲涅児ト書ニ福路舌カ垂ト云ヒ北
狄ヲ打潰ノ諸般痛患ヲナス処又腫塊ヲナス上ニ置テ極テ緩和ヲナスト云本邦ニモ干
足凍瘡裂腫痛ヲナスニ此液ヲ塗レハ痛和之腫消ス此モ香黒黄赤ノ数色ア
リコト草称スルコトノ葱ヲキ草称スルニ全ク熬乾スルモノヲイリコト哮喘
咳倭名抄海鼠和名古雀禹錫食鏡云似蛭大者也ト見エタリ然レモコト弥スルハ古キニシ
今ニ至ルマデ海鼠ノ黄腸ヲ腊トシテ上好ノ酒饌ニ充ラ東都ヘ貢献アリコレ
ヲコノワタト云モ理アリト思エリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

沙噀　ナマコ　尋常者色青黒茶褐ノ斑アリ
又赤色ニメ赭黒ノ斑アルモアリ赤キモ
コトニ味全ク只食料ニ人不好因テ漁人
獲レハ串子イリコ等ニスト云此物ニテ
凍瘡上ヲ摩ハ癒ト云

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

# 海參　和刺參者即是イリコ



一種小者極黑硬色黑
形作四稜ニ所有刺肚
内有沙子

# 金海參　キンコ

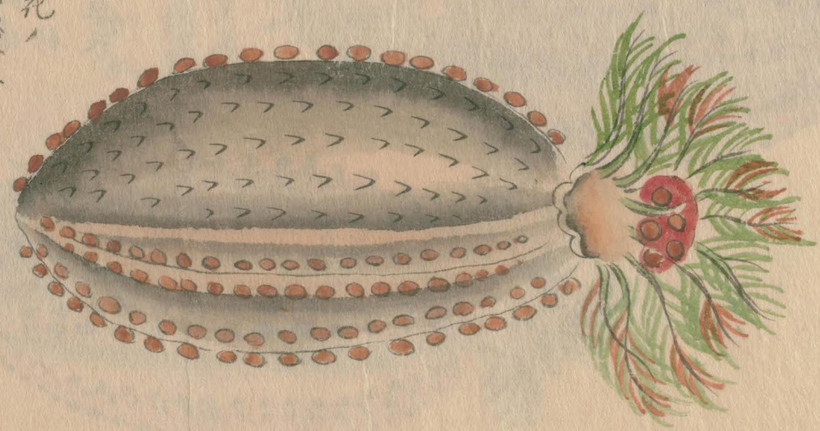
奥ニ金華山海中産肚皮ニ粟粒ノ如キ瘡痕三條アルノミニシテ刺ナシ本草從新所謂光參是ナリ子ナキヲ異トスス又一種ノ光參アリ形大皮厚硬時下品トス肥息參及仏參ノ名アリ是ハ重山串子ナリ

後俗ニ其塩水醃藏者ヲ化乙炎冬ノ月偽湯之作回員大概子燥汙贈也其狀壓扁皮爛而損真形ヲ遺憾因想像而作北岡観者察識乃思過半而已

蝦夷地海中ニアリコヲ称ス色蒜花色ヲナス故ニ此称アリ奥州金華山産ノ如キ黄赤ノミアルヲ稀ナリ其物ヲ採乾ヲ土人不知近年採乾ニ其法ヲ得ザレハ形壞ヲ其用ヲ中ニ欠ク用ヲナリ

海參者卯殊ニ多シ海外ノ國ニ出ルヲ以テ少シ因ヲ華舶蛮船貨物ニ換ヘ齎去ルト云本邦ニモ東北海産ノモノ最優レリ就中陸奥州金華山ヨリ東北数百里間奥州往古天平宝字年中以前ヨリ近今ヲニ町ヲ以テ一里トナス海底一種之海參ノ産ス里人是レヲ金冨ト呼一本堂藥撰ニ金海參ト称參ニ人モノホリ他只ハ海中ニ復タ産スルコトナシ実ニ是一奇品ナリ

金華山ハ牡鹿郡ニ為ス陸地ヨリ北島ノ
遠ニ隔タル海中ノ小島ナリ
巌石間皆黄金色ヲナス此島
黄金多シ因テ其精気海底ニ
溢死シテ北金海参ヲ産スト
云傳フ其形状土仏ノ如ク長
四五寸許遅ナリ其色黒
或ハ淡黒ニシテ緻紅ヲ帯黒班
アル者アリ軟滑ナルコト生海
参ニ似タリト雖モ肉刺ナシ又
小瘡瘢アリ上巌四畔細蓋
ノ如キモノ生シ下巌ハ小疱子栗
起シテ梅花ノ辮ニ似タリ腹下ニハ
栗粒ヲ排列セルガ如キモノ有ヲ
リ尾ニ至ルマデ三條アリ一條幅
一分餘其一條ノ間七八分
ツヽ隔ツ是ニテ岩ニトリ附キ
滑走シテ微ニ身ヲ屈縮シテ行
是ノ用ヲナスガ如シコノモノ常ニ水底石間ニアリ天気快霽美
好ナル日口中ヨリ一物ヲ吐出ス其形絹糸ヲ聚メテ造レル前緑花ノ
ごとシ其色黄黒青淡黒等数品アリ恰モ墨栗花ノ開ケル如ク浅水上



ヨリ観テ愛スルニ堪タリ漁人是ヲ獲コトハナケレト云物ニ觸レハ忽ニ口中ニ縮ヘテ見エス肉厚
サ三四分腸ハ線條ノ如ク肚内ニ充満シテ空虚ナシ黄緑ノ二色アリ黄腸ノモノ上品トナス
緑腸ノモノ美ナラズ下品ナリ潮水ヲ呑ノ外他物ヲ食コトナシ尋常ノ海参ノ腹中砂子ノミアルト迥ニ異ナリ
ヲ連テ賞味スルニナリ煮熟法アリ此ニ零ス御コノモノハ本邦陸奥金華山下ノ海中ニ
ノミ有テ他ニアルコトナシ嘗テ聞ノ東夷地亦コノモノヲ産ス東言ヲタラウタトヲ云ヘル海
鼠ニ挙称ウタト呼ヨシ詳密ナルコト仙台大槻子煥筆記セル金海一珠トイエル書
ニ載ス

又案蝦夷海中ニ此モノ尋常海鼠中ニ雑リ得ルコトタヽシ東語つじマトヲ夷人乾腸トナ
ス食コトヲ不知ヲ冬ノ藁タリ識者アツテコレ金海参ナリト乾腸ニ作レルヲ得ハ国益
ノ術ヲ會得セザルニ因ラ腸出ス形甚巌醜ニシテ因ニ充ラズト聞リ是ノ法ノ得ハ国益
ナルベシ此文化乙丑冬ノ冬コトナルヨシ其地ニ役在セシ森氏詰ヤリ蘭山子ハ本草往新所
載光参ニ充ツ是ニ非ス其書云有刺者名刺参無刺者名光参註云関中海参ノ色
猶白類撲ツケ簽大如掌味亦淡劣海上人復有ツ生草鵜作之ノ語アリ此即ハ童
山虫子ト俗称スルモノニテ味甚薄劣下品ノモナリ肥前五島或ハ薩隅海中ノ産ナリ細竹
而條ヨツテ串キ乾モノ恰モ牛頭皮ノ如シ形大ニシテ刺ナシ白ノ透明ナリ薬性鑒要ニ海
参ノ一種無肉刺色帯白名為肥皂参味咸之ト云モノ即此モノナリ近ロ朱佩章偶記
ヲ閲ルニ有無刺而黒白斑間者為仏皮参ノ色味共不及刺参ノ出文登瓊州等処一行
刺参可買十斤仏皮参ト云モノ此物ヲツヌ賎劣可知也其金海鼠ニ至テハ本邦東奥
海中ニノミ産スル処漢名穿鼻スルニ及テヘクラス本邦産物ノ一ニシテ栄トスルニ耐タリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

海參煮法アリ法ヲ失ヒ堅
敢不堪食味モ亦美ナラズ
其法水ニ浸ス一夜
白湯ニテ一時煮又一
夜水ニ浸シ又一時煮ル
カクスニハ筋ニテ挟ミ切レル
程モナルヲ下汁ニ入レ煮味ハフ
ホト煮用ユ又一種ノ法柔煮
アリ銅壺ノヌルニ湯ヘ浸シ置ク
一夜翌朝一鉢ノ湯中ニ糠一握
入レ煮ルコト一時短日ノコトハ二時是ニテ
味ハヒ煮ルナリ

同右海濱砂石上ニ有之有角蛞蝓角ノ如シ
人觸ル時ハ尾上ノ孔ヨリ紫汁ヲ出シ沙石
ヲ染ム薩ニテ方言ムラサキトモ一ニ物ト
ス松前ニ際リアル物ニ非ス諸ニアラ海
ノ濱辺岸上ニアリ其紅汁ヲ出スニヨ
リテ云フカウボウトモ云ヘルヨシ神田
玄泉所著日東魚譜ノ出ニ西
国方言海鹿參州方言
ウミメウシ相ニノ方言ジヤウモダシト
云フ者海濱ニ産ス形蜱蛭ニ似テ大
サ五六寸者有耳角恰モ牡鹿頭
ニ似タリ觸之出血故ニ此等ノ方言アリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

一りに肉裙アり目も皆黒褐ニシテ腹灰白ニテ小疱瘡粟粒ヲ撒スルカ如シ腹
赤褐色ノ者アリト云ハ即此モノナリ
夷松前三馬屋海濱產方言ウミコヅミ筑前方言海ウサギ海シカト云
水戸ニテベイコ佐州ニテ赤ベカ摂丹兵庫ノ津エンカウバウ房州モト云諸
凡海濱皆アリテ方言多シ
本綱石蠶附錄ノ雨虎ナルベシ
薩凡方言ムニサキ
寛政中淀江長伯崇台命捉夷ニ至ル時三馬屋中田岩ノ上ニテ得之
即所圖之モノ是ナリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

水引鰕　吳呂ヨリ

頭上兩鬚高ク起リ其尖リ即眼アリ總シテ鬚
ニ非ズ眼並ビ長ク出ルモノナリ

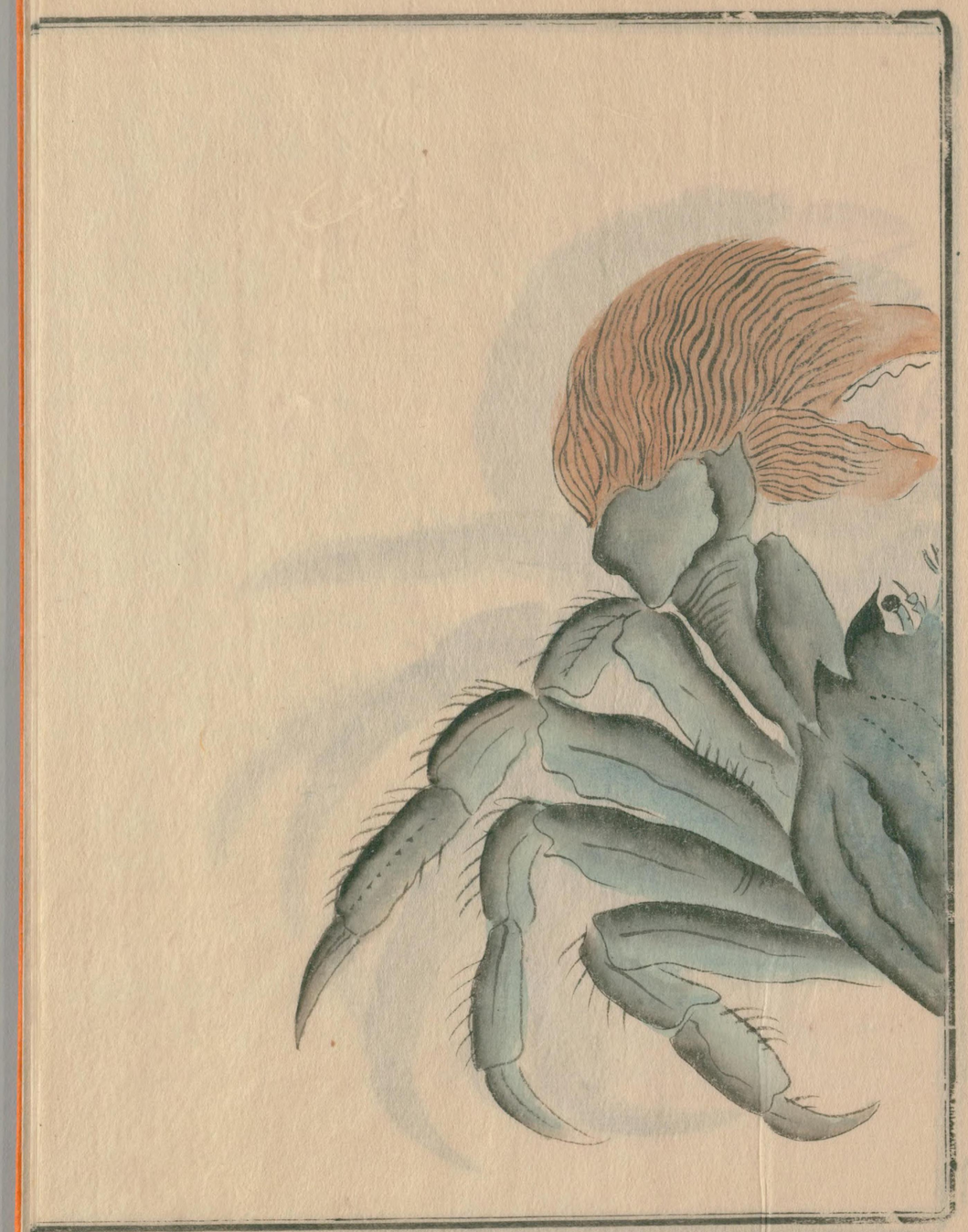
猩々鰕

越前魚名浦産

此物鰓ヨリ上ル時ハ脚並ハサミヲ
置テ不動其狀圓ノ如シ渡汐
上ニアルハ左右ニ脚ヲ伸ベ走ル
長時ニ似タリ走ルコト能ハズ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160

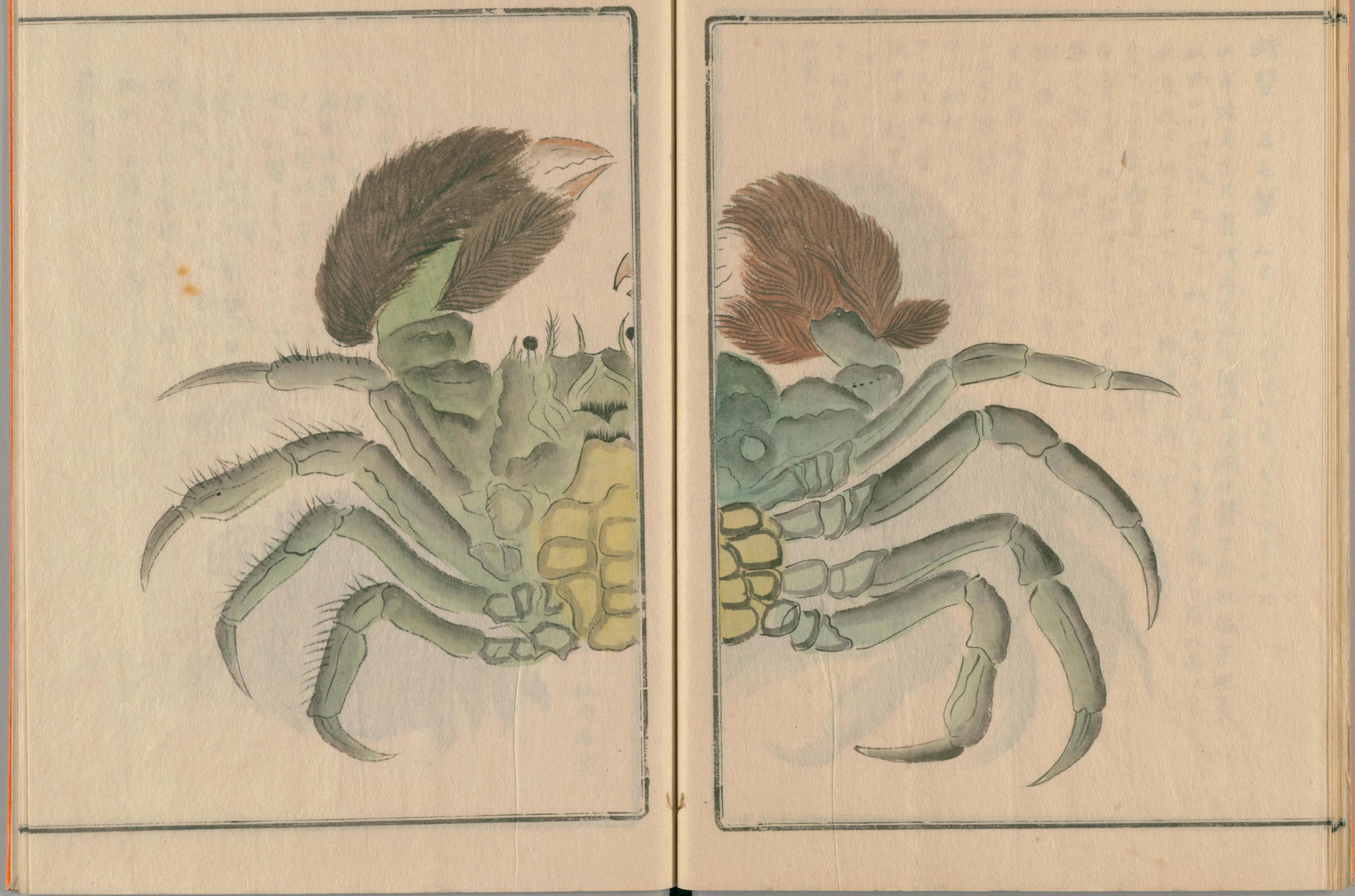
ガラス使用



# 螃蟹　一名毛蟹　和名　ツガニモクヅガニ　モクソウガニ　ヒモ

出寧波府志又臺湾府志云毛蟹生溪澗中鰲生毛秋後甚肥美
此物山川深流ノ処ニ生ス秋八九月未流ニ下ル蕎麥花ノ頃大雨アリテ
水漲流ル時多クトル小侯トス微毒アリ病人忌ス
食フベカラズ金瘡ニテ筋ノ断ルヲ接続スルニ妙
黄膏ヲ用ユ妙蟹甲ヲ破リ黄膏ヲ取リ土
器ニ入陰干ニシ細末トナシ乳汁ニ和シ疵ノ
側ニ傳ヘ又風ヲ洗フ毎ニ傳ルヲヨシトス
奥奈翁誠名方ニテ大和本草ニモ説
ヲ出セリ津蟹トカキテアリ東都戸田川
中川利根川ニ皆
アリ又上水ノ長
流水中ノ麺覧
ノ内ニアルヲ聞
ケリ伯兄散ニ
此蟹ヲ用ユヘ
キナリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160

ガラス使用

藻屑ガニ

相州小田原海中ニ産スルヨリ大ナルモノアリ總身毛アリ土泥ナド付テ至テムサキ形ナリ漁人モヨウガニトモ大ナルモノハ渚蟹ト同ジ

渚蟹

澤ガニ處ノ五月 十三日寫

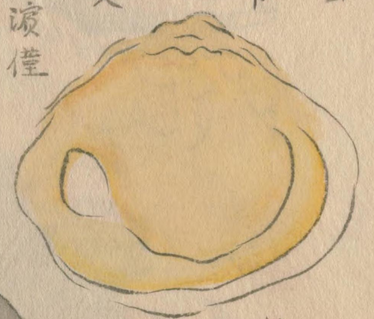
函嶺温泉ノ処沢ノ処ニアリ此蟹好テ蒲菜ヲ喫ヒ田ニテ此蟹多キ処ニハウサビヲ不作ト云此蟹火上ニテ焙食ハ味美ナリ又湯ニテ作テ酒蝶トス

虱蟹 マメガニ

是汐狗ノ小者

蛤中小蟹潔白透徹ヲ蛤肉倶食鮮脆洽美又奇品也

小蟹胎於蛤腹中者俗呼ワニムクリト云
土又甫毛産蛤中各孕小蟹方言サキツト
云又薩又久見崎海中所産蛤十中三六七
ハ腹中ニ小蟹アリ蟹ト共ニ煮食ノ味極テ美
ナリ遠境ノ人甚タ珍重ス其所産之海濱僅
ニ方二町許之必ナリ其他ハ尋常モノニテ蟹アルコトナシ文化六
己ノ酉薩又栄翁老侯本国ヨリ東国ニ輸致セラル同僚
桂月池国瑞ニ贈ル其中一伯ヲ分テ予ニ合恵ス剖開テコレヲ
ミルニ内ノ腹タリト雖モ存活スルノ新ニ今海中ヨリ拾取得タルモノト同シ真味ヲ珍賞スルニ
餘味感スベシ三四石里程ノ日数ヲ径テ来スルモノニ此小蟹モ亦活在スル一ニの事ナリ後
年遺忘センコトヲ恐ル因テコヽニ録シ以テ好君子ニ示スノミ
昌蔵桜嶺南雑記云釗蚌腹有小蟹任昉述異記謂之蛤即是也



此蛤東都ノ海中ニ産スルモノト異ナリ形丸ミアリテ質堅ク文ト斑紋モ亦如此

此小蟹図ノ如ナル大サニ於甲白キ三星アリ牡下紋所ノ葵文アリムキミノヒラ〳〵ニタル処ヲタスキトニハカニ似テ其タヾキノ薄キ皮ト肉トノ間ニ此小サキ蟹虫入スロヲ開ケ殻外ヘモ出テ遊フニヤ全体入ニキ餘地ナキ処ナリ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

アブラ蟹
海濱ニ生ズカタチ名
蟹ニ似テ甲薄黒クハサ
ミムラサキ色ヤリ脚薄黄
紫ノ斑紋アリ毛モアリ

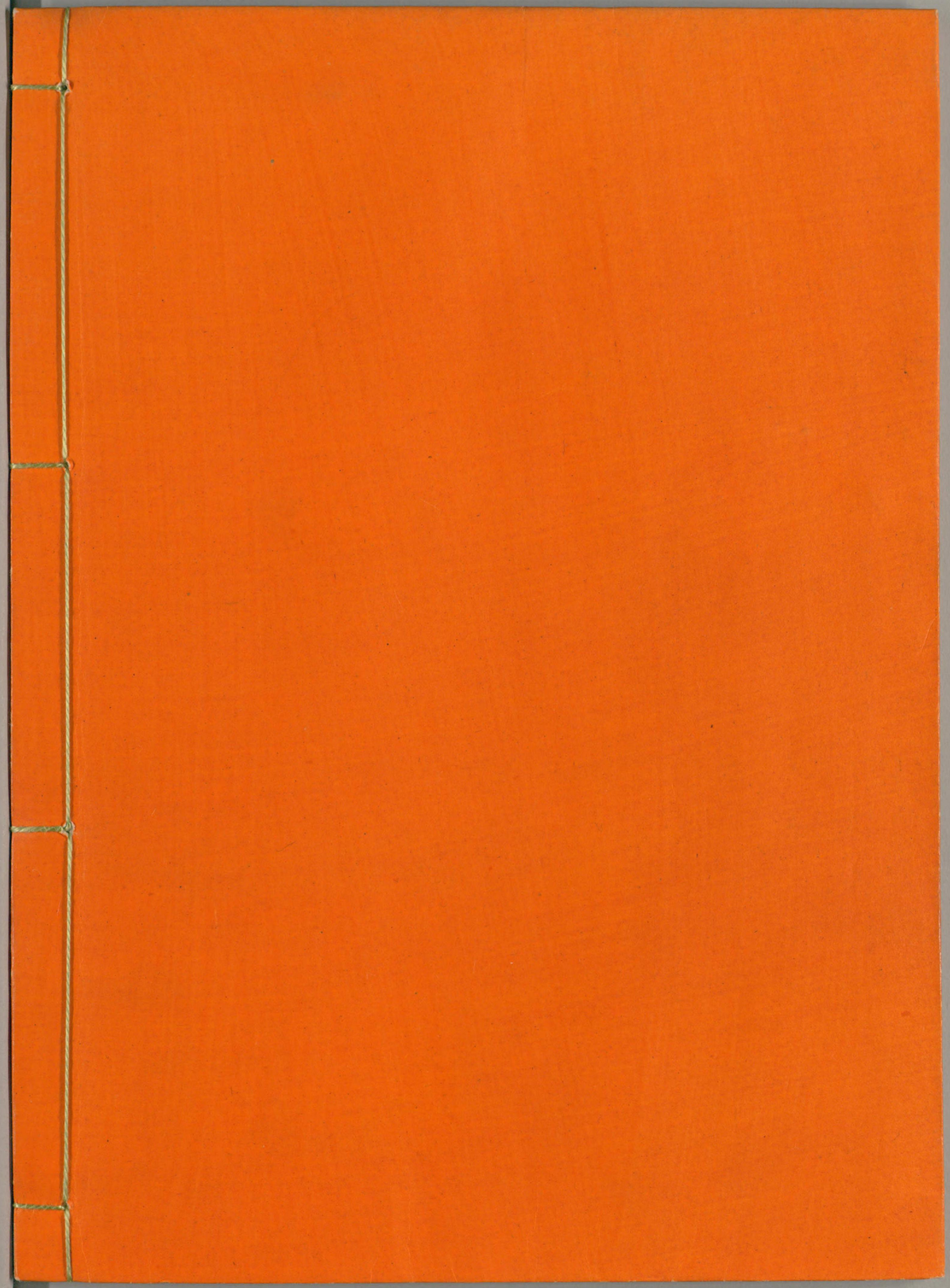
正字通曰長尺餘兩螯至強曰蝻蚾
又云螯不毛後跪薄溷如櫂曰捺櫂

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用

特7
160

ミンヅウガニ
九州ノ産ナリ
関東ニ絶テ
ナキ者ナリ
千脚ハサミ
折カバメテ
乾ク亦赤
甲上ヨリノ
ミヘズ手タ
クレテマシ
チヨウ如シ
関テ名ク
ト云フ

国立国会図書館　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『千虫譜 5巻』 請求記号 特7-160

ガラス使用